

# 高専における エンジニア教育と キャリア形成

2015年

10/19 月

10:00 ~ 15:00  
(受付 9:30 ~)

一橋大学一橋講堂  
中会議室 3,4

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2  
学術総合センター内

3408人の  
高専卒業生が“高専”に  
いま、思っていること

## プログラム

9:50 ~ 開会挨拶

10:00 ~ 第1部 研究報告  
テーマ「高専におけるエンジニア教育とキャリアの接続関係」

報告1「高専生の進路選択と職業キャリア」

濱中義隆 氏

国立教育政策研究所高等教育研究部総括研究官

報告2「高専生の学びと社会的有用性」

新谷康浩 氏

横浜国立大学教育人間科学部准教授

報告3「高専生の学びとキャリアの接続」

矢野真和 氏

東京工業高等専門学校特命教授

コメンテーター

本田由紀 氏

東京大学大学院教育学研究科比較教育社会学コース教授

12:00 ~ 休憩

13:00 ~ 第2部 パネルディスカッション  
テーマ「エンジニア教育とキャリア形成のあり方」

モデレーター

本田由紀 氏

東京大学大学院教育学研究科教授

中澤達夫 氏

東京工業高等専門学校特命教授

パネリスト

千葉新三 氏

一関工業高等専門学校機械工学科卒業

北上製紙株式会社取締役工場長

栗和田健 氏

宮城工業高等専門学校金属工学科卒業

株式会社三菱化学科学技術研究センター

無機系機能材料研究所機能性セラミックスグループ主任研究員

池田明 氏

長野工業高等専門学校電気工学科卒業

株式会社ミマキエンジニアリング代表取締役会長

小坂貴幸 氏

東京工業高等専門学校物質工学科卒業

東ソー株式会社バイオサイエンス事業部開発部遺伝子グループ

長尾裕貴 氏

米子工業高等専門学校電子制御工学科卒業

キャノン株式会社宇都宮光学技術研究所

ICP121 設計室主任研究員

コメンテーター

奥山成美 氏

宇部工業高等専門学校 経営情報学科卒業

奥山成美公認会計士事務所所長

株式会社エルテス常勤監査役

芝野好希 氏

和歌山工業高等専門学校 電気情報工学科卒業

株式会社梅谷製作所開発設計部制御グループ

片平智仁 氏

鹿児島工業高等専門学校 土木工学専攻科卒業

大成建設株式会社環境本部環境開発部イノベーション推進室課長代理

14:50 ~ 閉会挨拶

## 登壇者のご紹介

### ■報告 1

#### 濱中義隆 氏

国立教育政策研究所高等教育研究部総括研究官

東京大学教育学部卒業。(東京大学大学院教育学研究科博士後期課程中退。)修士(教育学)。専門分野は教育社会学、高等教育論。1999年学位授与機構審査研究部助手、2002年大学評価・学位授与機構学位審査研究部助教授、2011年独立行政法人大学評価・学位授与機構研究開発部准教授を経て2013年国立教育政策研究所高等教育研究部総括研究官。主な著書『大衆化する大学—学生の多様化をどうみるか』(共著・岩波書店2013年)、『大卒就職の社会学—データからみる変化』(共著・東京大学出版会2010年)、『現代の社会階層—格差と多様性』(共著・東京大学出版会2011年)ほか

### ■報告 2

#### 新谷康浩 氏

横浜国立大学教育人間科学部准教授

日本学術振興会特別研究員、横浜国立大学教育人間科学部講師、横浜国立大学教育人間科学部助教授を経て、2007年から横浜国立大学教育人間科学部准教授。本田由紀氏と共著で『高専卒業生のキャリアと高専教育』(日本労働研究機構1998年)を執筆。主な実績として、『戦後経済変動と技術者の労働市場参入—高専卒業生の入職パターンにおける時系列変化を中心に—』(『教育社会学研究』64集1999年)、『高度成長期以降の労働市場における短期高等教育の評価とその変化—高専・短大卒業生の処遇に着目して』(『産業教育学研究』31巻1号2001年)、『<正規・非正規>境界のゆらぎ』(『Jilpt調査シリーズ№131』2014年)など。

### ■報告 3

#### 矢野眞和 氏

東京工業高等専門学校特命教授

東京工業大学名誉教授

政策研究大学院大学客員教授

東京工業大学工学部卒業。工学博士。専門分野は教育経済学、教育社会学。国立教育研究所研究員、広島大学助教授、東京工業大学教授、東京大学教授、昭和女子大学教授、桜美林大学教授を経て、退職。東京工業大学名誉教授。主な著書『高等教育の経済分析と政策』(玉川大学出版部1996年)、『教育社会の設計』(東京大学出版会2001年)、『「習慣病」になったニッポンの大学』(日本図書センター2011年)ほか。

### ■コメンテーター

#### 本田由紀 氏

東京大学大学院教育学研究科教授

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。専門分野は教育社会学。

2001年東京大学社会科学研究所助教授、2003年～2005年東京大学大学院情報学環助教授(併任)を経て、2008年から東京大学大学院教育学研究科比較教育社会学コース教授。高専卒業生についての最初の本格的調査を1998年に実施され、その報告書が『高専卒業生のキャリアと高専教育』(共著・日本労働研究機構1998年)である。主な著書に『若者と仕事—「学校経由」の就職を超えて』(東京大学出版会2005年)、『多元化する「能力」と日本社会』(NTT出版2005年)、『教育の職業的意義』(ちくま新書2009年)、『社会を結びなおす』(岩波ブックレット2014年)など。

## 2014年度「高専卒業生キャリア調査」について

### 調査の概要

高専における学習経験と卒業後のキャリアとの関係を把握することで、高専教育が果たしてきた役割を教育学や教育政策の観点から学術的に解明し、今後のエンジニア教育全体を検討するための基礎データを集成することを目的としています。

2014年12月に実施した本調査は、参加高専を卒業した1976年3月から2008年3月迄の卒業生を対象としています。1校につき900件、合計12,600件の対象者をランダム抽出したうえで、アンケート調査票を郵送し、3,408件の回答を得ました。(回答率28.6%)

### 調査参加高専

八戸、小山、東京、長岡、沼津、鈴鹿、和歌山、米子、宇部、阿南、佐世保、熊本(八代キャンパス・熊本キャンパス)、鹿児島

**2016年2月6日(土)「高専研究シンポジウム(仮称)」を開催します。**

中間報告を踏まえ、今後さらに分析を深めたうえで、最終報告会を開催致します。是非ご出席ください。

## KOSEN 発 “イノベティブ・ジャパン” プロジェクト推進室



〒193-0997 東京都八王子市桐田町1220-2  
国立高専機構 東京工業高等専門学校 総務課内

TEL(FAX) : 042-668-5133(5090)

MAIL : innovative\_kosen@tokyo-ct.ac.jp

公式 HP : <http://www.innovative-kosen.jp/>

# 「高専卒業生キャリア調査」単純集計結果表

「高専卒業生キャリア調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

調査の実施に際し、皆様方には年末・年始のあわただしい時期にご協力を依頼しご負担をおかけしましたが、幸いにも3,408名の皆様からご回答を得ることができ、エンジニア教育及び高専教育の改善に資する貴重な基礎データを収集することが出来ました。

本事業では、ご回答いただいた調査票を集計し、3月に集計結果を取りまとめ、全国の高等専門学校等にお送りしましたが、集計データとして扱っている関係上、ご回答いただいた皆様には御礼を込めて本資料にて報告させていただきます。

現在、よりよい教育を求めた教育改革が提案されていますが、何よりも大事なものは、高専教育が果たしてきた役割を解明し、その実態に即した議論をすることだと考えております。その議論を豊かにするために、4月から新たに「高専研究調査委員会」を設け、今回の貴重なデータを詳しく分析する作業を進めております。その成果も逐次に報告する予定ですが、まずは、調査にご協力いただいた卒業生の皆様方に重ねて御礼申し上げます。

平成27年 5月 文部科学省大学間連携共同教育推進事業  
 KOSEN 発 “イノベーティブ・ジャパン” プロジェクト  
 事業推進代表者 東京工業高等専門学校長 古屋 一 仁  
 Email: innovative\_kosen@tokyo-ct.ac.jp

※表の数字は%、NAは無回答  
 ※複数回答質問のM.T.は回答数の合計を回答者数(n)で割った比率(%)  
 ※回答者数(n=3351)は回答者総数3408から卒業年を調査対象年以降と回答された者57を除いた数

はじめに、あなたが卒業した高専ならびにあなた自身のことについてお答えください

学校名	高等専門学校		学科名	学科	
学科系統 (n=3351)	29.6 機械工学関係 11.0 土木工学関係	29.9 電気・電子工学関係 3.3 建築学関係	5.9 情報工学関係 19.7 工業化学・物質工学関係	NA 0.0 0.6	その他
入学年	(西暦) [ ] 年 [ ] 月		卒業年	(西暦) [ ] 年 [ ] 月	
入学の形態 (n=3351)	98.1 1年次に入学 1.9 3・4年次に編入学		0.0	その他 ( ) NA -	
性別 (n=3351)	88.5 男性	11.5 女性 NA -	生まれ年	(西暦) [ ] 年	
最終学歴 (n=3351)	73.0 高専卒 12.1 大学院修士課程修了	3.6 高専専攻科修了 2.3 大学院博士課程修了	7.6 大学学部卒 1.0 その他	NA 0.4	

## Section1 あなたの中学時代のことについてお聞きします。

問1 あなたの中学生時代において、つぎのことがらはどれくらいあてはまりましたか。

(A~Eそれぞれについて1つずつ○) (n=3351)	まったく あてはまら ない	あまり あてはまら ない	やや あてはまる	とても あてはまる	NA
A. 機械、ロボット、電気製品などが好きだった	12.5	21.1	37.2	28.9	0.3
B. コンピュータ、プログラミングなどが好きだった	36.9	34.6	19.7	7.7	1.1
C. 工作やデザインなどが得意だった	12.4	27.5	36.3	22.9	0.9
D. 理数系の科目が得意だった	2.3	9.9	37.3	50.1	0.4
E. 英語の科目が得意だった	22.9	38.2	26.5	12.3	0.2

問2 高専への受験を決めた理由として、つぎのことがらはどの程度あてはまりましたか。(n=3351)

(A~Jそれぞれについて1つずつ○)	まったく あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	NA
A. 専門的知識を身につけられるから	5.7	14.9	46.3	32.3	0.9
B. 技術に興味があったから	5.0	15.4	44.9	33.7	0.9
C. 就職に有利だと思ったから	6.2	15.2	34.2	43.4	1.0
D. 大学に編入学できるから	43.7	36.3	12.5	6.4	1.1
E. 学費が安いから	10.3	21.7	37.9	29.2	0.9
F. 高専の寮があったから	44.1	26.9	17.7	10.3	0.9
G. 身近に高専出身者がいたから	52.5	21.6	14.4	10.6	1.0
H. 高専の評判が良かったから	13.0	20.2	45.0	20.9	0.8
I. 中学の先生に勧められたから	35.8	29.6	19.5	13.8	1.4
J. 親に勧められたから	26.5	24.1	27.7	19.5	2.3
K. その他（具体的に記入してください：_____）					

問3 あなたが入学した高専への進学は第一志望でしたか、それとも他の進路を志望していましたか。(n=3351)

80.2	第一志望の高専・学科に進学した	7.8	高校に進学したかった	
10.3	高専の別の学科に進学したかった	1.0	その他（具体的に：_____）	NA 0.5

問4 中学3年の時の成績は、あなたの通っていた中学校のなかでどのあたりでしたか。(n=3351)

下のほう	やや下	真ん中くらい	やや上	上のほう	NA
0.2	0.7	6.2	32.6	59.6	0.7

## Section2 あなたの高専（1～5年生）時代についてお聞きします。

問5 あなたは高専時代に、つぎのような活動にどの程度熱心に取り組んでいましたか。(n=3351)

(A~Hそれぞれについて1つずつ○)	まったく 熱心でなかった	あまり 熱心でなかった	やや 熱心だった	とても 熱心だった	NA
A. 専門科目の講義	3.0	28.2	53.1	15.1	0.6

B. 専門科目の実験・実習	2.3	19.5	51.6	26.0	0.5
C. 卒業研究	4.1	28.5	43.8	22.8	0.7
D. 人文社会系の一般教育科目	13.0	58.8	24.1	3.4	0.7
E. 理数系の一般教育科目	3.2	34.0	51.3	10.8	0.7
F. 英語の学習	19.3	53.8	21.6	4.6	0.7
G. 工場実習・インターンシップ	9.8	27.5	41.6	18.1	2.9
H. 部・サークル活動、学生会活動、 学校行事（学校祭など）	12.1	26.4	32.1	28.9	0.6

問6 あなたは高専の授業科目の中で、ワクワクするほど楽しい科目がどの程度ありましたか。(n=3351)

(A,Bに1つずつ○)	あまりなかった	1~2割ほどあった	3~4割ほどあった	5割以上あった	NA
A. 専門科目	18.0	34.1	34.6	12.2	1.1
B. 一般教育科目	32.4	43.4	19.6	3.0	1.6

問7 あなたが楽しい、面白いと感じた科目は何でしたか。具体的な授業科目名を3つまで挙げてください。授業科目の内容を示すものであれば、正確な科目名でなくてもかまいません。

授業科目名1	授業科目名2	授業科目名3

問8 あなたは授業への出席以外に、一週間あたり平均して何時間ほど「自学自習」をしていましたか。  
※ここでの「自学自習」には、授業の予習や復習、授業で出された課題、実験レポート、学校の授業とは関係のない勉強、読書などをすべて含みます。ただし、定期試験前の勉強時間を除いた日常的な学習時間についてお答えください。

(n=3351) (A~Cそれぞれ1つずつ○)	ほとんどしない	1~5 時間	6~10 時間	11 時間以上	NA
A. 1~2年生のとき	25.7	48.2	16.7	7.7	1.7
B. 3年生のとき	26.9	46.0	18.7	6.6	1.8
C. 4~5年生のとき	26.6	44.1	18.9	9.6	0.7

問9 あなたの高専在学時の成績は、学科のなかでどのあたりでしたか。(n=3351)

(A~Cそれぞれ1つずつ○)	下のほう	やや下	真ん中 くらい	やや上	上のほう	NA
A. 1~2年生のとき	15.9	14.5	28.0	21.2	18.5	2.0
B. 3年生のとき	12.4	14.5	31.8	21.2	18.1	2.0
C. 4~5年生のとき	14.8	13.4	23.6	24.2	23.5	0.6

問10 あなたは高専在学時に、留年したことはありますか(留学などの場合は除きます)。留年したことがある方は、留年した時期についてもお答えください。(n=3351)

94.7	留年したことはない	4.4	留年した → [ ] 年生のとき
------	-----------	-----	------------------

NA 1.0

問11 あなたは高専時代に、つぎのジャンルの本をどの程度読んでいましたか。(n=3351)

(A~Fそれぞれについて1つずつ○)	まったく 読まなかった	少し読んだ	かなり読んだ	NA
A. 思想書・教養書	62.9	31.4	4.9	0.8
B. 歴史関連図書・ノンフィクション	48.1	38.9	12.2	0.8
C. 純文学	64.0	27.4	7.6	1.0
D. 専門の関連図書	30.6	54.3	14.2	1.0
E. ビジネス書	75.2	21.6	2.3	0.9
F. マンガ・コミック	15.9	42.3	41.0	0.8

問12 あなたの高専在学中の生活に、つぎのことがらはどの程度あてはまりますか。(n=3351)

(A~Gそれぞれについて1つずつ○)	まったく あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	NA
A. きめ細かい個人指導が受けられた	22.5	50.0	22.6	3.8	1.0
B. 受験勉強がないためのびのびと学生生活を送れた	1.8	8.3	43.8	45.2	1.0
C. 授業や課題が多くて大変だった	4.3	35.1	43.5	16.2	1.0
D. 修業年限が長いので学業が中だるみになった	11.7	44.8	34.2	8.2	1.1
E. 高専を中退して他の学校等に進路変更しようとして本気で考えた	69.2	17.4	7.9	4.5	1.0
F. よい教師に巡りあえた	3.4	19.8	52.0	23.8	1.0
G. よい友人に巡りあえた	0.8	6.4	38.8	53.1	0.9

問13 あなたは**高専卒業時に**、つぎに示すような知識・能力をどの程度身につけていたと思いますか。(n=3351)

(A~Jそれぞれについて1つずつ○)	高専卒業時の獲得水準					NA
	まったく 身につけて いなかった	←	どちらとも いえない	→	十分身に ついて いた	
A. 専攻した分野に関する専門的知識	3.7	10.5	26.5	49.2	9.0	1.0
B. 工学全般に関する幅広い知識	3.7	12.4	31.1	45.5	6.2	1.0
C. 社会や経済に関する知識	17.6	40.4	32.7	7.3	0.7	1.1
D. 外国語で書いたり話したりする力	40.5	36.3	16.4	5.4	0.5	0.9
E. 自分の手を動かす実験などから問題の本質をつかむ力	4.5	13.7	31.5	38.5	10.8	1.0
F. 自分自身で考えながらものづくりをする力	4.6	11.0	29.0	42.3	12.0	1.0
G. コンピュータやインターネットを活用する力	15.5	18.9	24.8	27.5	12.2	1.2
H. 他の人と協働する力	2.3	8.6	31.3	43.4	13.3	1.1
I. 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力	4.1	13.9	42.1	32.3	6.8	1.0
J. プレゼンテーション能力	15.1	28.1	35.5	16.9	3.4	0.9

問14 あなたは高専時代の教育、学生生活にどの程度満足していますか。(n=3351)



(A~Fそれぞれについて1つずつ○)	まったく満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	NA
A. 授業科目の内容・水準	1.9	19.2	63.5	14.5	0.9
B. 実験実習の内容・水準	1.8	14.2	58.9	24.1	0.9
C. 課外活動	4.7	30.9	43.8	19.5	1.1
D. 教員との人間関係	3.3	23.2	53.6	18.9	1.0
E. 友人関係	0.7	6.4	43.2	48.8	0.9
F. 高専での生活全般	1.2	9.4	58.0	30.6	0.9

問15 高専卒業時の進路について、①5年生になった頃に希望していた進路、②卒業後の実際の進路のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

	就職	高専専攻科に進学	大学に編入学	その他	NA
① 希望していた進路 (○はいくつでも) (n=3351, M.T.=108.3%)	74.7	5.4	26.7	1.5	0.9
② 実際の進路 (○は1つ) (n=3351)	74.4	5.0	18.8	1.7	0.1

Section3 高専卒業後に、高専専攻科や大学に進学した方にお聞きします。

——→(進学しなかった方は Section4 問 28 に進んでください)

問16 あなたが高専専攻科や大学に進学した理由として、つぎのことがらはどの程度あてはまりますか。

(A~Hそれぞれについて1つずつ○) (n=869)	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	NA
A. 高専時代と同じ分野の高度な専門知識を身につけたかったから	9.0	19.0	38.0	31.9	2.2
B. 高専時代の分野とは異なる専門知識を身につけたかったから	20.1	31.4	27.7	18.6	2.1
C. 幅広い教養を身につけたかったから	8.9	22.8	43.7	22.6	2.1
D. 大学院に進学するため	29.3	23.9	22.0	22.6	2.2
E. 就職後のキャリアを有利にするため	10.2	15.5	37.3	35.0	2.0
F. 高専の先生に勧められたから	34.8	32.8	20.1	10.0	2.3
G. 親に勧められたから	42.0	32.3	15.4	7.7	2.5
H. 高専時代の成績が良かったから	26.2	23.1	33.0	15.3	2.3
I. その他 (具体的に記入してください: )					

Section3-1 高専卒業後に高専の専攻科に在学したことがある方のみにお聞きします。

——→(大学に編入した方は、Section3-2 問 21 に進んでください)

問17 あなたが在学した高専専攻科への進学は第一志望でしたか、それとも他の進路を志望していましたか。  
(n=175)

72.0	第一志望の高専専攻科・専攻に進学した	6.9	就職したかった
0.6	高専専攻科の他の専攻に進学したかった	1.1	その他 (具体的に: )

18.3	大学に編入学したかった	NA 1.1
------	-------------	--------

問18 あなたは授業への出席以外に、一週間あたり平均して何時間ほど「自学自習」をしていましたか。  
 ※ここでの「自学自習」には、授業の予習や復習、授業で出された課題、学校の授業とは関係のない勉強、読書などをすべて含むこととします。ただし、定期試験前の勉強時間を除いた日常的な学習時間についてお答えください。

A,Bに1つずつ○)	(n=175) 一週間あたりの平均的な自学自習の時間				
	ほとんどしない	1～5時間	6～10時間	11時間以上	NA
A. 1年生のとき	22.9	40.0	24.6	12.0	0.6
B. 2年生のとき	20.6	37.7	26.9	12.0	2.9

問19 あなたは高専専攻科時代の教育、学生生活にどの程度満足していますか。(n=175)

(A-Fそれぞれについて1つずつ○)	まったく満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	NA
A. 授業科目の内容・水準	2.9	24.0	56.6	16.6	-
B. 学会などでの研究発表	7.4	24.6	46.3	20.6	1.1
C. インターンシップ	18.3	27.4	33.1	18.3	2.9
D. 教員との人間関係	1.7	17.1	49.7	31.4	-
E. 友人関係	1.1	9.7	48.6	40.6	-
F. 高専専攻科での生活全般	2.3	13.7	56.0	28.0	-

問20 高専専攻科修了時の進路について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(n=175) NA 0.6

63.4	就職した	→	Section4 (問28)に進んでください
29.7	大学院に進学した	→	Section3-3 (問26)に進んでください
6.3	その他(具体的に: )	→	Section4 (問28)に進んでください

Section3-2 高専卒業後に、大学に編入学したことがある方のみにお聞きします。

問21 あなたが編入学した大学の学部・学科は、高専のときの学科と同じ分野でしたか。(n=694)

68.3	高専のときと同じ	27.4	高専のときと異なる	NA 4.3
------	----------	------	-----------	--------

問22 さしつかえなければ、編入学した大学、学部、学科名をお答えください。

大学名	大学	学部名	学部	学科名	学科
-----	----	-----	----	-----	----

問23 あなたが編入学した大学での学習・学生生活に、つぎのことがらはどの程度あてはまりますか。(n=694)

(A-Dそれぞれについて1つずつ○)	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	NA
A. 高専出身の学生の方が目的意識をもって勉強していた	4.2	25.5	42.1	23.6	4.6
B. 専門教育の授業は高専の方が丁寧だった	3.6	27.5	39.2	25.5	4.2



C. 専門教育のレベルは大学の方が高かった	4.8	30.8	35.3	25.1	4.0
D. 高専卒業生は交際範囲が狭いと感じた	8.6	32.7	35.3	19.3	4.0

問24 あなたは編入学した大学時代の教育、学生生活に、どの程度満足していますか。(n=694)

(A~Fそれぞれについて1つずつ○)	まったく満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	NA
A. 授業科目の内容・水準	2.4	18.6	57.8	17.4	3.7
B. 実験実習の内容・水準	5.0	27.4	45.0	18.6	4.0
C. 課外活動	12.2	35.2	31.3	17.0	4.3
D. 教員との人間関係	9.4	32.1	39.9	14.8	3.7
E. 友人関係	3.0	14.4	43.8	35.0	3.7
F. 大学での生活全般	1.6	15.7	53.3	25.6	3.7

問25 大学(学部)卒業時の進路について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(n=694) NA 3.7

29.8	就職した	→	Section4 (問28)に進んでください
61.0	大学院に進学した	→	Section3-3 (問26)に進んでください
5.5	その他(具体的に: )	→	Section4 (問28)に進んでください

**Section3-3 高専卒業後に大学院へ在学したことがある方にお聞きします。**

問26 あなたが在学した大学院の課程はつぎのどれですか(在学したものすべてに○)。(n=488, M.T.=113.3%)

96.5	修士課程(博士前期課程)	15.4	博士課程(博士後期課程)	1.4	海外の大学院
------	--------------	------	--------------	-----	--------

NA 0.2

問27 さしつかえなければ、在学した**大学院修士課程**の大学、研究科、専攻名をお答えください。

大学名	大学	研究科名	研究科	専攻名	専攻
-----	----	------	-----	-----	----

**Section4 あなたの職業キャリアについてお聞きします。**

問28 あなたは現在、働いていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(n=3351)

96.2	働いている	
3.6	以前は働いていたが、いまは働いていない	
0.2	高専卒業後、働いたことはない	→ Section5 (問41)に進んでください

NA -

問29 あなたが学校卒業後(高専、高専専攻科、大学、大学院など)、**最初に就いたお仕事**についてつぎの各項目にお答えください。

就職した時期	(西暦)[ ]年[ ]月	勤務地(都道府県)	[ ]
--------	--------------	-----------	-----

業種 (n=3344)	0.2 農林漁業 12.4 建設業 54.6 製造業 0.7 商社卸売 0.4 小売・百貨店・飲食 0.2 金融・保険 10.0 運輸・通信・電気・ガス 8.2 ソフトウェア・情報通信 0.4 NA 0.9 マスコミ・広告・調査 1.6 教育(学校を含む) 4.5 その他サービス 5.3 公務 0.6 その他
職種 (n=3344)	6.6 研究 30.0 開発・設計 3.7 企画・計画・調査 7.4 品質管理 20.8 生産技術 3.8 営業・販売 7.1 SE・情報処理 2.2 人事・総務・経理 3.7 建築・土木・測量技術者 5.3 生産工程の職業 0.1 管理的職業 1.6 その他の専門的・技術的職業 1.1 サービスエンジニア 2.6 その他 4.1 NA
企業規模 (常勤の従業者数) (n=3344)	4.7 29人以下(自営業を含む) 8.1 30～99人 18.6 100～499人 9.8 500～999人 51.8 1000人以上 6.7 官公庁・地方自治体・学校法人等 0.3 NA
行きたい企業等でしたか(1つに○) (n=3344)	28.3 初めから行きたいと思っていた 58.5 就職活動の途中から行きたいと思った 12.6 あまり行きたくなかった 0.7 NA
仕事の内容と学校(最終学歴)での専門との関係(n=3344)	34.5 専門と密接な関係があった 55.6 広い範囲では関係があった 9.6 工学分野とは関係がなかった 0.3 NA
配属された職場・職務について(1つに○)(n=3344)	22.5 最も興味のある職場・職務だった 55.0 それなりに興味のある職場・職務だった 16.2それほど興味のない職場・職務だった 6.0 まったく興味のない職場・職務だった 0.3 NA

問30 あなたはこれまでに転職(離職)したことがありますか。(n=3344)

57.1	転職したことはない (最初に就職した企業等で働き続けている)	}	(転職・離職したことがある方のみ)
23.2	1回転職(離職)した		
10.9	2回転職(離職)した		
8.2	3回以上転職した→(具体的に[ ]回)(平均=4.11回)		
			最初の企業等での勤続年数(n=1414)
			[ ]年 [ ]ヶ月(平均=6.77年)

NA 0.6

問31 あなたはこれまでに、海外での勤務の経験はありますか。海外勤務の経験がある方は、期間、主な職務の内容についてもお答えください。

85.6	海外勤務の経験はない	}	(海外勤務の経験がある方のみ) (n=431)	
12.9	海外勤務の経験がある			
			期間	通算[ ]年 [ ]ヶ月(平均=3.00年)
			主な職務の内容	(具体的に記述してください)

NA 1.5

問32 あなたの**現在のお仕事**について、つぎの各項目にお答えください。問28で「2.以前は働いていたが、いまは働いていない」と回答した方は、直近のお仕事についてお答えください(以下同じ)。

就職した時期	(西暦) [ ]年 [ ]月	勤務地(都道府県)	[ ]
業種(n=3344)	0.8 農林漁業 10.6 建設業 44.8 製造業 1.2 商社卸売 1.8 小売・百貨店・飲食 0.5 金融・保険 9.3 運輸・通信・電気・ガス 7.3 ソフトウェア・情報通信 2.3 NA		

	1.3 マスコミ・広告・調査 3.1 教育(学校を含む) 7.6 その他サービス 8.6 公務 0.8 その他
職種 (n=3344)	4.0 研究 21.5 開発・設計 6.8 企画・計画・調査 5.7 品質管理 14.5 生産技術 6.4 営業・販売 5.5 SE・情報処理 6.0 人事・総務・経理 2.2 建築・土木・測量技術者 3.3 生産工程の職業 2.5 管理的職業 3.3 その他の専門的・技術的職業 1.3 サービスエンジニア 5.4 その他 11.6 NA
企業規模 (常勤の従業者数) (n=3344)	12.6 29人以下(自営業を含む) 7.4 30~99人 15.8 100~499人 7.8 500~999人 40.5 1000人以上 9.3 官公庁・地方自治体・学校法人等 6.6 NA
職位・勤務形態 (n=3344)	31.2 一般社員・職員 20.5 係長・主任クラス 17.1 課長クラス 8.9 部長クラス 6.7 経営者・役員 3.5 自営業主・家族従業者 2.9 パート・アルバイト 1.7 その他 7.4 NA
1週間の平均的な勤務時間(残業を含む)	1週間に [ ] 日(平均=5.09日)(n=3344) 計 [ ] 時間(平均=47.50時間)(n=3344)
現在の仕事の内容と学校(最終学歴)での専門との関係(1つに○)(n=3344)	26.2 専門と密接な関係がある 50.2 広い範囲では関係がある 16.8 工学分野とは関係がない 6.8 NA
現在の職場・職務について(1つに○)(n=3344)	24.2 最も興味のある職場・職務 57.8 それなりに興味のある職場・職務 8.6それほど興味のない職場・職務 2.6 まったく興味のない職場・職務 6.8 NA

問33 これまでにあなたが取得した資格のうち、現在の職場において、役に立つあるいは有効だと思われる資格を3つまでお答えください。

資格名1	資格名2	資格名3

問34 あなたは、現在の仕事について、どの程度満足していますか。(n=3344)

(A~Dそれぞれについて1つずつ○)	まったく満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	NA
A. 仕事の内容	2.6	15.6	56.6	23.9	1.2
B. 処遇(給与や昇進など)	5.7	23.3	50.4	19.2	1.4
C. 上司との人間関係	3.9	17.9	53.7	21.7	2.8
D. 同僚・後輩との人間関係	1.5	12.7	60.0	23.8	2.0

問35 あなたの現在の職場における処遇は、あなたの最終学歴に対して適切なものだと思いますか。(n=3344)

(A~Dそれぞれについて1つずつ○)	まったく適切でない	どちらかといえば適切でない	どちらかといえば適切	とても適切	NA
A. 仕事で使う知識・技術のレベル	6.0	18.5	55.7	17.9	1.9

B. 仕事上の責任の大きさ	4.6	17.6	57.5	18.4	2.0
C. 給与	6.6	23.3	52.9	15.2	2.0
D. 昇進のチャンス	8.5	24.2	49.7	15.0	2.7

問36 現在のあなたの年収（税込み）はおおよそどれくらいですか（1つに○）。(n=3344)

4.0	199万円以下	13.0	600～699万円	2.7	1100～1199万円
3.9	200～299万円	11.8	700～799万円	2.9	1200～1299万円
8.4	300～399万円	9.1	800～899万円	1.7	1300～1399万円
11.4	400～499万円	6.6	900～999万円	0.9	1400～1499万円
13.7	500～599万円	5.9	1000～1099万円	2.3	1500万円以上

NA 1.7

問37 あなたは、現在の仕事や将来のキャリアのために、つぎのような活動をどの程度行っていますか。

(A~Dそれぞれについて1つずつ○)	一週間あたりの平均的な活動時間				
	していない	週に1~2時間	週に3~5時間	週に6時間以上	NA
A. 職場での勉強会・研修会	63.7	31.0	2.7	1.0	1.6
B. 職場以外での勉強会・研修会	78.5	16.4	2.7	0.9	1.5
C. 英会話、資格などの学校	86.2	9.1	2.2	1.0	1.5
D. その他の自己学習	50.4	31.4	11.2	5.8	1.3

問38 あなたは現在、つぎのジャンルの本をどの程度読んでいますか。(n=3344)

(A~Fそれぞれについて1つずつ○)	まったく読んでいない	少し読んでいる	かなり読んでいる	NA
A. 思想書・教養書	53.8	38.5	5.9	1.8
B. 歴史関連図書・ノンフィクション	51.6	38.2	8.6	1.5
C. 純文学	74.2	20.6	3.4	1.9
D. 専門の関連図書	30.4	54.7	13.2	1.7
E. ビジネス書	34.3	53.0	11.2	1.6
F. マンガ・コミック	52.3	35.7	10.3	1.7

問39 あなたは、つぎに示すような知識・能力を、**現在**、どの程度身につけていると思いますか。(n=3344)

(A~Jそれぞれについて1つずつ○)	現在の獲得水準					
	まったく身につけていない	←	どちらともいえない	→	十分身につけている	NA
A. 学校で専攻した分野に関する専門的知識	9.4	20.0	29.0	32.6	7.6	1.5
B. 工学全般に関する幅広い知識	6.5	15.1	30.1	40.4	6.4	1.5
C. 社会や経済に関する知識	5.0	15.3	36.8	36.1	5.2	1.6
D. 外国語で書いたり話したりする力	33.8	29.3	19.8	12.9	2.6	1.5

E. 自分の手を動かす実験などから問題の本質をつかむ力	5.5	11.4	27.3	38.8	15.5	1.5
F. 自分自身で考えながらものづくりをする力	3.1	6.1	21.5	46.4	21.2	1.6
G. コンピュータやインターネットを活用する力	2.5	6.3	21.6	43.3	24.9	1.4
H. 他の人と協働する力	0.8	3.1	18.0	50.8	25.8	1.5
I. 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力	1.2	5.3	25.5	47.2	19.3	1.5
J. プレゼンテーション能力	4.2	11.6	30.9	38.5	13.4	1.4

問40 あなたは、仕事上の難しい問題に直面したとき、個人的に相談できる友人がどの程度いますか。また、その友人は、どのような関係にある方ですか。

友人の人数 (1つに○)(n=3344)		(n=2675) どのような関係の友人ですか (あてはまるものすべてに○)(M.T.=160.3%)	
18.5	とくにいない	82.4	現在の職場の友人
34.4	1～2人	41.2	高専時代からの友人
31.7	3～5人	8.1	大学・大学院時代からの友人
13.9	6人以上	15.1	中学以前からの友人
	NA 1.5	13.5	その他 ( )
			NA 0.0

### Section5 高専教育に対する評価についてお聞きします。

問41 高専時代をふりかえって、もっと熱心に取り組んでおけば良かったと思うことはありますか。(n=3351)

(A~Hそれぞれについて1つずつ○)	もっと熱心に取り組んでおけば良かった				
	まったく そう思わない	あまり そう思わない	やや そう思う	とても そう思う	NA
A. 専門科目の講義	4.0	18.0	42.5	34.3	1.2
B. 専門科目の実験・実習	4.6	22.2	41.0	31.0	1.2
C. 卒業研究	6.3	33.9	35.5	22.8	1.4
D. 人文社会系の一般教育科目	6.8	38.4	36.5	16.9	1.4
E. 理数系の一般教育科目	3.6	24.9	46.0	24.3	1.3
F. 英語の学習	2.8	12.8	28.2	54.9	1.3
G. 工場実習・インターンシップ	7.5	34.3	36.5	19.5	2.3
H. 部・サークル活動、学生会活動、学校行事(学校祭など)	9.1	32.9	38.0	18.7	1.3

問42 高専時代をふりかえって、つぎにあげる項目は、現在のあなたの仕事や生活にどの程度役に立っていると思いますか。それぞれについて10点満点(0点~10点)でお答えください。

(nは点数の無回答を除いた数) (A~Iそれぞれについて10点満点で何点かを記入)	仕事や生活に役に立っている度合い
A. 専門科目の講義(n=3293)	平均=5.91 点

B. 専門科目の実験・実習(n=3293)	平均=5.89 点
C. 卒業研究(n=3293)	平均=4.55 点
D. 人文社会系の一般教育科目(n=3292)	平均=4.22 点
E. 理数系の一般教育科目(n=3291)	平均=5.64 点
F. 英語の学習(n=3293)	平均=3.97 点
G. 工場実習・インターンシップ(n=3201)	平均=4.48 点
H. 部・サークル活動、学生会活動、学校行事(学校祭など) (n=3290)	平均=5.39 点
I. 高専での教育全般(n=3294)	平均=6.16 点

問43 あなたは高専卒業後、高専とのつながりを継続していますか。①これまでに活用したことがあるもの、②今後、活用してみたいものそれぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

①これまでに活用したことがあるもの (○はいくつでも)(n=3351,M.T.=108.4%)		②今後、活用してみたいもの (○はいくつでも)(n=3351,M.T.=141.1%)	
4.7	共同研究や技術相談など	19.1	共同研究や技術相談など
2.7	社会人向けの公開講座	21.1	社会人向けの公開講座
27.6	同窓会の活動	32.3	同窓会の活動
26.9	教員との個人的つながり	23.7	教員との個人的つながり
46.5	OB・OG との個人的つながり	44.9	OB・OG との個人的つながり

問44 高専教育の強みと弱み、改善したほうがよいと思う点などについて、自由にお聞かせください。

これで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。



## 市場は「高専」をどのように評価しているか

矢野 真和

### 揺らぐ「高専」のうわさ

“イノベティブ・ジャパン”プロジェクトでは、「高専研究」を一つの柱にしている。工学部を卒業したにもかかわらず、エンジニアになりそこね、「高等教育研究」という文系の研究世界に足を踏み入れて長くなったが、高専についてはほとんど知らない。「高専研究」という任務を拝命している身として恥ずかしいが、高専を知っている高等教育研究者がいないのも事実である。私が体験的に知っているのは、高校3年生の時に第1期の高専が創設され、超人気の学校としてデビューしたことである。入学志願倍率が10倍を超えていた時代だった。そして、大学を卒業して自動車会社に就職した時は、初期高専の卒業生が就職する時期で、彼らと一緒に同じ新入社員研修プログラムを受けた。宿舎で高専卒業生と同部屋になったこともあり、優秀な高専生に驚かされたことをよく覚えている。

1960年代の華々しいデビューと比較すれば、その後の高専はやや地味目の印象だが、高専卒業生の活躍ぶりを耳にすることは多いし、その活躍ぶりはいくつかの出版物で紹介されている。出版物に登場するのは、そもそも活躍している人だから、高専の平均像とはいえない。しかし、卓越したエンジニアを輩出しているのは、高専が優れた教育的土壌をもっている証だろう。その一方で、素晴らしい高専伝説に反発してか、ネットの書き込みでは、高専の真実を告白するかのように、高専の弱点や悲観的なコメントが流されたりしている。うわさを拾うのは乱暴だが、高専学歴については、「大卒並み」言説と「高卒並み」言説の間を大きく揺れているように思われる。

ほんとうのところ、高専の教育はどのような特徴をもっているのか。その特徴は、卒業後の仕事にどのような影響を与えているのか。学生時代の学びは卒業後のキャリアとどのように関係しているのか。そもそも「高専教育」は役に立っているのか。こうした素朴な問いを解明するために、高専卒業生の学び体験の記憶と職業キャリアの推移を追跡する「高専卒業生キャリア調査」を実施した

(<http://www.innovative-kosen.jp/kosenkenkyu/kenkyuinfo/>)。卒業生調査はすでにたくさんあるといわれるかもしれない。しかし、高等教育研究と社会調査の専門家の目からみれば、多くの調査は正直もの足りない。高専だけでなく、大学生の卒業生調査も、量的かつ質的に貧困である。日本の大学は、高専とは大きく違って、悪名高いが、だからといって、何らかの証拠に基づいて語られているわけではない。ここでも体験談やうわさが優位な世界になっている。「高専研究」を「大学教育研究」のモデルにしたい。知られていない高専を明らかにするアプローチは、大学教育の実態を浮き彫りにするに有益な研究モデルになると考えている。「高専研究」にそんな思いを込めている。

### 市場の「学歴」評価－「高専研究」ことはじめ

やや大げさな「高専研究」宣言だが、その成果を逐次に紹介しながら、関係者の批判を仰ぎたいと計画している。まずは「高専研究」ことはじめとして、前々から気になっていた疑問を提起しておきたいと思う。それは、市場による学歴の評価に関する事実についてである。

教育の成果は、本人に体化し、生涯の資本になる。資本の力はその人の仕事ぶりに現われ、仕事ぶりの評価によって処遇が決まる。評価に対する不満はつねに残るが、さまざまな折り合いと妥協による合

理的選択の結果が、仕事の処遇、つまり所得である。したがって、所得の多少は、教育の成果に影響を受ける。わが国ではあまり馴染みのない教育観だが、国際的には広く共有された理論（Human Capital Theory）である。

教育成果の集合体を大きく分類したのが「学歴」である。この学歴と所得の関係については、厚生労働省が詳しい調査を毎年継続的に実施している。『賃金構造基本統計調査』である。そこでは、性、年齢、産業、企業規模、勤続年数、業種別に、学歴別所得が詳しく分かるようになっている。

男性・産業計の簡単な事例を紹介しておこう（表1）。平成26年6月の給与を12倍し、前年度の給与を合算した年収になっている。30代の高卒は438万円、高専・短大卒454万円、大学・大学院卒575万円になっている。歳とともに所得が上昇するが、単なる年齢主義による結果ではない。職場の労働経験や教育訓練によってスキルが向上するからである。学校教育と職場の教育訓練の蓄積が、各セルの所得の違いとなって現われる。なお、この報告書の学歴分類は、すべて「中学卒」「高校卒」「高専・短大卒」「大学・大学院卒」の四分類に限定されている。

表1 男性・産業計の学歴別年収(平成26年:単位万円)

	30代	40代	50代
高卒	438.2(100)	528.5(100)	566.3(100)
高専・短大卒	454.1(104)	571.1(108)	628.6(111)
大学・大学院卒	575.3(131)	764.8(145)	838.6(148)

この結果を読みながら、いろいろと想像していただきたいが、私たちの日常的観察から推察される所得の平均像は、ほぼこれに近いはずである。普通の人にとっては、特段に珍しい結果だとは思われないうちかもしれない。しかし、これが常識化しているとしたら、高専関係者は非常に困ったことになる。この集計に異議申し立てをしてもいいはずだが、そのような声を聞いたことはない。

表によれば、高専・短大カテゴリー（短期グループとする）は、教育年数として高校と大学の間だが、所得からみた経済的地位は、中間とはいえず、高卒に近いポジションにある。省略したが、女性の場合は様子が異なる。女性の短期グループの所得は、高卒と大卒のほぼ中間に位置する。男性と違って女性は、短期の学校に進学するメリットが大きいのである。短期グループの学生数が女性で占められるのは、こうした経済的理由があるからである。短期グループの経済的地位が、日本の学歴社会の特徴になっている。

### 「高専調査」にみる「高専」の市場価値

短期グループの高専は、大学に近いどころか、高卒に近い。うわさの話に戻せば、高専の「高卒並み」言説に近い。高専関係者は、この報告に納得しないと思うが、男子の短大卒の数は高専よりも少ない。だとすれば、表の平均値は高専の実態に近いかもしれない。しかし、この短期グループには、専門学校（専修学校専門課程）が含まれている。しかも、その数は高専の10倍ほどになる。数からすれば、短期グループを代表する名称は、「高専・短大」ではなく、「専門学校」である。市場の高専評価は、専門学校に埋もれて、行方不明になっている。したがって、膨大な調査報告書の集計は、高専にとって何の役にも立たない情報である。むしろ、誤解を与える情報源になっている。

ほんとうのところは分からないが、「高専研究」をする立場になれば、放置できない問題である。しか

し、政府統計に対抗する情報を収集するのは困難である。最も適切なのは、『賃金構造基本統計調査』の個票データにアクセスして、高専単独の分析をする方法である。もしできれば、高専の 50 年の活躍ぶりを実証的に追跡できることになる。非常に面白い研究になると思うが、残念ながら、一研究者が個票にアクセスすることはできない。そこで、次善の策として私たちは、「高専卒業生キャリア調査」で平成 26 年の「年収」を質問することにした。失礼な問いではあるが、キャリアの現状把握として欠かせない情報でもあり、無理をお願いした。ご回答いただいた 3408 名の方に感謝したいと思う。

この調査の結果を、高専本科卒だけでなく、大学学部・大学院の卒業別に集計したのが表 2 である。これを表 1 と比較すれば分かるように、「表 1 の高専・短大」が「高卒並み」に近かったのに対して、私たちの調査の高専本科は、「大卒並み」だといえる。アンケート調査による年収データを疑いたくなる気持ちは分かるが、3000 人を越えるランダム・サンプルの「平均値」はそれほど大きく揺らがない。信頼性に疑問が残るとしても、表 2 の本科卒と大学学部卒の差はかなり小さい。それだけ高専本科卒の評価が大卒に近いといえる。表には高卒所得を 100 にした指数を ( ) 内に示しておいた。

表2 高専調査による学歴別の年収(平成 26 年度、単位万円、表1の高卒=100)

	30 代	40 代	50 代
高専 本科卒	587.4(134)	760.1(144)	851.4(150)
高専+学部卒	572.6(131)	794.9(150)	979.5(173)
高専+修士卒	631.5(144)	862.1(163)	1077.2(190)

### 製造業／大企業の効果—所得のバラツキを遡及する

調査の誤差に目をつぶっても、高専の事情に明るい方は、表 1 と表 2 の比較に無理があると思われるだろう。高専が活躍する職場の主流は、製造業の大企業である。この恵まれた職場に就職できるのが高専のウリになっている。産業全体の平均である表 1 と恵まれた職場の高専を比較するのは、高専教育の効果なのか、恵まれた産業の効果なのか分からなくなる。産業の効果を教育の効果に含めるのは、高専教育の過大評価になる。この疑問を検討するために、政府統計の製造業・大企業の学歴別年収をみてみよう (表 3)。

表3 <製造業大企業>男子の学歴別年収(平成 26 年、単位万円)

	30 代	40 代	50 代
高卒	553.1(100)	691.2(100)	768.2(100)
高専・短大卒	569.4(103)	734.0(106.2)	834.4(109)
大学・大学院卒	662.5(120)	892.3(129.1)	1058.0(137.7)

全体の平均と比較すれば、いずれのセルでも、100 万円から 200 万円ほど多くなっている。製造業・大企業が恵まれた職場であるのは確かである。高卒と大卒の間の所得格差は産業計よりも縮小しているが、短期グループの学歴は、高卒と大卒の中間よりもかなり高卒に近い。

これを高専調査の表 2 と比較すれば、高専の本科卒は表 3 の短期グループに近くなる。「高専卒の平均」を「製造業・大企業」基準から評価すると、「製造業・大企業」の「大卒」よりも「高卒」に近く

なる。しかし、恵まれた階層を基準に高専の平均を評価するのは奇妙である。高専の年収も「製造業・大企業」に限定しなければいけない。その結果を示したのが表4である。

表4 高専調査の<製造業大企業>男子の年収(製造業・大企業の高卒=100)

	30代	40代	50代
高専 本科卒	678.4(123)	928.9(134)	1020.1(133)
高専+学部卒	700.0(127)	933.3(135)	1033.3(134)
高専+修士卒	670.0(121)	931.8(134)	1148.1(149)

表の()内には、製造業・大企業の高卒を100にした指数を示した。高専本科卒は、政府統計の「大学・大学院」を若干上回ったりするほどである。その一方で、高専から大学学部、大学院に編入した卒業生の所得はそれほど高くない。しかし、製造業・大企業に限ると進学者のサンプル数が少なくなるので、確かな議論をするのは難しい。進学するメリットがないというような議論はできない。

大ざっぱな紹介にとどめるが、市場からみた「高専」の評価は、高卒よりもかなり大卒に近いといえそうである。政府統計による誤解を糺しておく必要性は高いと思うが、ここでは、市場による学歴評価の意味と意義を理解いただければ幸いである。

私たちは、所得の平均値だけに関心があるわけではない。平均は大事だが、それに勝るとも劣らず所得のバラツキに着目する必要がある。産業や規模だけでなく、所得が平均よりも大きくなったり、少なくなったりする原因を探りたいと考えている。とくに関心があるのは教育の効果である。学校時代の学習態度や学業成績は、所得の多少を規定する要因になっているか、さらには、職場での研修や学習の影響はどうか。市場の評価(所得)の背後にある要因を遡及しながら、学習とキャリアの関係を探るアプローチを「高専研究」の一つの切り口にしたいと考えている。

(2015年7月15日掲載)

URL : <http://www.innovative-kosen.jp/project/column/yano150715/>

■ 執筆者

矢野 眞和 (やの まさかず)

東京工業高等専門学校特命教授

政策研究大学院大学客員教授

東京工業大学名誉教授

専門分野：高等教育政策, 教育経済学, 教育社会学

お問い合わせ先

KOSEN 発 “イノベティブ・ジャパン” プロジェクト推進室

〒193-0997 東京都八王子市櫛田町 1220-2

(独) 国立高専機構 東京工業高等専門学校総務課内

TEL(FAX) : 042-668-5133(5090)

MAIL : [innovative\\_kosen@tokyo-ct.ac.jp](mailto:innovative_kosen@tokyo-ct.ac.jp)

公式 HP : <http://www.innovative-kosen.jp/>